

寺尾 立子

高知北高等学校昼間部は、平成3年4月、全国で14番目、四国では初めての単位制高等学校として出発した。午前中は週5日間と、午後は少なくとも週1日以上登校して、3年で卒業できるという、県下のどの高等学校も取り入れていない教育課程を編成している。また一人ひとりの希望ができるだけ活かせるように大幅な選択制を導入している。

週1日は、通信科目の授業も行っている。授業科目に比べ授業時数が少ないので、自宅等で学習し、疑問点や不明なところをおさえて授業を受ける。1単位あたり3回のレポートと定期テストが課せられ、美術Ⅰ・工芸Ⅰにも通信科目（3単位）がある。レンドリング等家庭でできる内容をレポートとして課し、主な制作は授業でやるといった計画が必要である。

また、本校には多様な課題を抱える生徒が多く在籍している。不登校が原因と考えられる学習空白や、実体験不足、道具の扱いに慣れていない生徒、制作における手順理解等認知面に困難さのある生徒、不潔強迫、聴覚過敏と思われる生徒がいる。そういった生徒に指導が集中しすぎてしまったり、電動工具を使用している時はその場から離れられなかったりするために、指導・支援がなかなか全体に行き届かない。怪我也多い上、つまずきのあるなしにかかわらず、生徒にとって充実感の乏しい授業になっているように感じ、学生支援員に授業に入ってもらい細やかな指導・支援をお願いしている。

#### 学生支援員による支援の内容

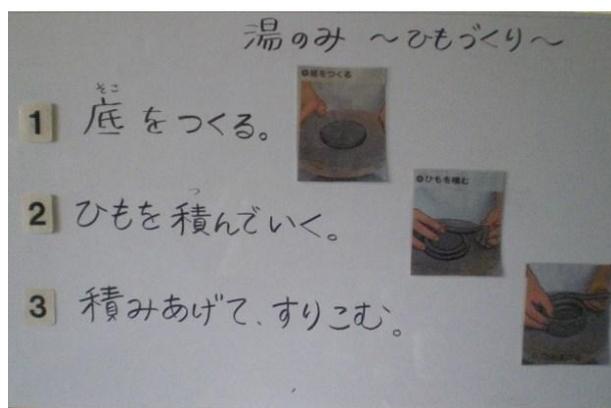
- ① 作品制作の手順理解が困難な生徒と一緒に、手順を確認しながら制作をすすめる。
- ② 全員に言葉かけをし、一つでもいいところを見つけて、評価する。

授業の教材の中心になるのは教科書である。しかし、生徒の実態やニーズによっては自分たちで発掘し教材化しなければならない。そこが私たちの専門性であるともいえると思う。

理解に困難のある生徒に分かりやすくする工夫として、シンプルな写真を使った視覚教材や、ホワイトボードを使用しての順を追っての説明等を心がけている。



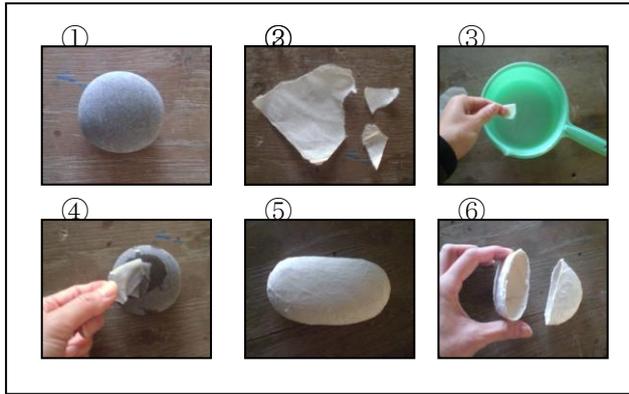
（数字や写真はラミネーター加工し、磁石をつけて使用。）



例えば・・・『 題材名：ペーパークラフト～石～ 』 では

言葉での説明や定義だけでなく、順を追っての説明やシンプルかつ有意義な視覚支援はつまずきのある生徒だけでなく他の生徒にもより分かりやすい。(写真①)は実際に授業の中で使用する道具を使って順を追って写真を撮りA4一枚のシートにし、生徒が見通しを持って制作できるようにした。次

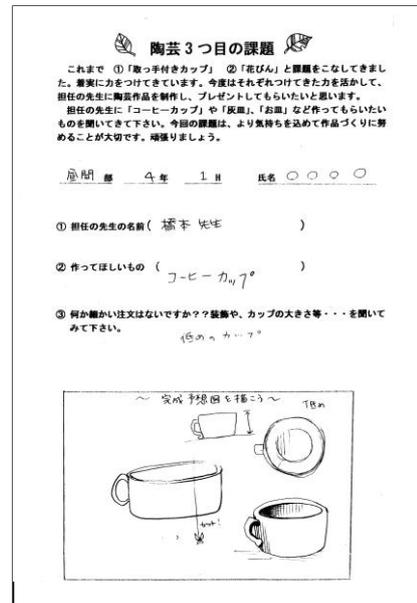
の課題に移った時も「この前みたいな写真はない？」という生徒も多く、主体的に教材に向かう姿勢に少しずつつながっている。



(写真①)

知識を活用して応用課題に取り組ませる。課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力等を育みながら、主体的に学習に取り組む態度を養ってもらいたい。一人一人が担任の先生に注文を詳しく聞き、完成予想図を描き、制作する。どうしたら注文通りに作品が完成し、喜んでもらえるのか思考錯誤しながら制作する。そして作品を届けた時の相手との気持ちの共有も言語活動の学習のねらいとして設定してもよいのではないかと考えている。

また、年に一度は対象をよく観察し、特徴を捉え、表現する力をつけることをねらいとする課題もある。モデリングにするか、カーヴィングにするかは、生徒の実態を見て決めている。写真は『 題材名：テラコッタ ～足～ 』である。



① 棒を作る



② 粘土を心棒のまわりにつける



③ 肉付けしていく

足の裏に一箇所穴を開ける



④ たくさん並ぶと圧巻です。

しかし生徒によっては不評でまだ課題があります。